

ソニックインパクトの第1号モデルが誕生 “防弾ガラス”の絶妙な按配 究極のターンテーブルシートが誕生

Text by
小原由夫
Yoshio Obara

Photo by 田代法生

ネットワークジャパン(株)がプロデュースする防弾ガラス仕様のターンテーブルシート「TGTS01」。本誌の前号にて初めて紹介し、炭山アキラ氏による絶大な評価をレポートしている。そして今回、このターンテーブルシートには新たにSONIC IMPACTというブランド名が与えられ、同製品が記念すべきその第1号となった。そこで本誌ではアナログの達人、小原由夫氏が同ターンテーブルを初試聴。その実際の効果をレポートすることにしよう。

**絶妙な質量と厚みが魅力
防弾ガラスは2枚合わせ**

インシシュレーターと同様、ターンテーブルシートにも軟質系と硬質系があると私は認識している。各人の音の嗜好や目的に応じて選んで構わないと思うが、注意していただきたいことは、フローティングタイプのアナログプレーヤーに重過ぎるターンテーブルシートは機能を損ねてしまうので使えないし、センタースピンドルの突出が短いケースに分厚いターンテーブルシートは不適ということ。

今回テストしたソニックインパクトのTGTS01は、そうした点では実に按配がいい。ほどよい質量、ほどよい厚みで、多くのアナログプレーヤーで使うことができると思う。厚みは8mm、重量は1・35kg。同社のサウンドマジックのオーディオラックでお馴染みの防弾ガラス製である。

もう少し細かく見てみよう。防弾ガラスの構成は、直径295mm／厚さ4mmのものをラミネートフィルムで2枚貼り合わせ、表面のレコードのレーベル面に当たる部分(直径103mm)に0・2mmほどの窪みを設けている。表面はテーパー加工等は施されておらず、

フラットな仕上げである。

防弾ガラスは、要人をアキシデントから守るべく、文字通り拳銃の弾などが貫通することを防ぐもので、粉々に粉砕することはない。したがって一般的なガラスよりも弾性が大いと思われ。実験結果では、振動を加えた際の応答波形において、4mm厚の防振ゴムシートと比べて衝撃レベルは遙かに弱く、なおかつ尾を引かないデータが採れている。このあたりが他社のガラス製ターンテーブルシートとTGTS01の音の違いとしてどう聴こえるか、興味はつきない。

一方で発売元の分析では、防振ゴム系のシートは、モーターの振動や外部からの共振等を伝えるに代わり、カートリッジがピックアップした音楽信号の元となる微細な振動の一部を吸収してしまうという。弾性を有したガラスシートであれば、そうした点も心配ないという見解だ。

TGTS01は重しとなるディスクスタビライザーとの併用を推奨している。具体的な指定はないが、200gから500g程度のディスクスタビライザーを目安としてほしいとのことだ。

**音像フォルムをくっきり描写
余韻がきれいに広がってくる**

試聴はテクニクスのアナログプレーヤー、SL・1000Rのゴム製シートを外して本甲を乗せた。まずはスタビライザー無しでテスト。オリジナルの付属ターンテーブルシートに比べ、華やかで明るいめのトーンとなり、分解能と中高域のクリアネスが高まるような印象だ。女性ヴォーカルの滑らかさや艶っぽさは、純正ターンテーブルシートにも魅力を感じるが、音場の見晴らしや立体感本品で俄然高まった。

続いて、オーディオテクニカのスタビライザーAT・618(600g)を併用した(SL・1000Rで重量盤LP試聴の場合)は、センタースピンドルの突出しが短いので、スタビライザー併用時には注意したい。どっしりと安定した末広りのエネルギーバランスを提示し、音像フォルムをくっきりと描写しながら、声の滑らかさや艶っぽさはスタビライザー無しよりも好ましい。

クラシックを聴いても、ホールトーンと共に余韻がきれいにフワッと広がる印象を受けた。ローエンドの厚みも増し、それでいて鈍

重にはならない。
なお、本品は初回販売100枚の限定モデルとなる模様。気にな

る方は、早めの行動をしておくに越したことはない。

SONIC IMPACT TGTS01

ターンテーブルシート
¥38,000(税別)

Specifications

- 材質:4mm+4mmラミネートクリアーガラス
- サイズ:8mm×φ295mm
- 質量:1.35kg●取り扱い:ネットワークジャパン(株)



「TGTS01」の断面。厚さ4mmの防弾ガラスをラミネートフィルムで2枚貼り合わせている

